

静岡大学の「公務員受験対策講座」で自衛隊の魅力をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、2月1日（木）、静岡大学静岡キャンパス（静岡市）において、同大学生生活協同組合が企画した「公務員受験対策講座」に参加した。この講座は、同大学の公務員講座受講者等を対象に公務員として働くことの魅力や仕事内容などを紹介するとともに、受講生が持つさまざまな疑問に各団体が答えるもので、防衛省・自衛隊を含む24団体が各ブースに分かれて学生と向き合った。

自衛隊ブースでは、静岡地本募集課長・伊東宏之2等陸佐が一般大学卒業者を対象にした「一般幹部候補生採用制度」に関する説明を行うとともに、同大学の卒業生で現在は陸上自衛隊第12ヘリコプター隊（相馬原駐屯地）でパイロットとして勤務している原秀明1等陸尉が、一般大学から幹部自衛官として入隊した自らの勤務経験や自衛隊の魅力について話した。

また、静岡募集案内所長・谷本明1等海尉が一般大学卒業後に一般曹候補生として入隊し、曹士階級での現場勤務を経験した後に部内の選抜試験を経て幹部となった自らのキャリアプランについても、「何をしたいか」という考え方に基ついて多くの選択肢が自衛隊にはあることを説明した。

学生からは「パイロットになるにはどのような資質が必要なのか」「各職種への配置は自身の希望がどの程度反映されるのか」といった具体的な質問もあり、それぞれが幹部自衛官として培った知識や経験を踏まえて適切なアドバイスを行った。

静岡地本は、今後もこのような卒業生自衛隊員が後輩に直接説明できる機会を積極的に活用し、防衛省・自衛隊の魅力をより多くの学生に伝え、熱意ある志願者を獲得できるよう努めていく。

女性自衛官が中学校で自衛隊のやりがいをPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、2月5日（月）、藤枝市立瀬戸谷中学校で行われた「職業講話」に講師として県内の基地で働く女性自衛官一人を派遣した。

同校卒業生の中には平成28年度航空学生航空要員がいるほか、本年度は女性が陸上自衛隊自衛官候補生として入隊が予定されており、多くの先輩が自衛隊の門を叩いている。

今回の職業講話は、1年生の男子生徒4人と女子生徒12人の計16人を対象に「生き方・職業」について学ぶことを目的とし、「企業や社会が求める人物像」などについて講話を行った。

自衛隊から参加した講師は、航空自衛隊第1飛行教育団基地業務群（静浜基地）の施設隊消防小隊に所属する杉山夏帆1等空士と同施設隊電気班に所属する天間さくら1等空士の女性自衛官一人。

講話では「進路選択をするにあたり必要な考え方や中学の時に身に付けておきたい力」「仕事の苦労ややりがい」などについてそれぞれの経験や女性ならではの視点から語り、生徒たちからの質問にも丁寧に答えた。約20分間の講話を4回実施し、制服や迷彩服を着た女性自衛官の話に興味津々な様子で聞き入る生徒たちに、二人は自衛隊の仕事ややりがいについて優しく話していた。

静岡地本は、今後も学校との繋がりを大切に、職業講話などの依頼を積極的に活用し、隊員の言葉を通じて学生に自衛官の仕事ややりがいなどの魅力を伝えていく。